京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太郎
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

雜報

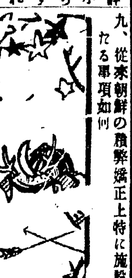
●北鮮漁業（某歸客談）

北朝鮮海は暖潮寒潮交々往來爲めに兩潮に浮游する數多の魚族が共に回游するより我北海道に於ける如く鮭若くは鰊と云ふが如く單純なるものにあらず彼の朝鮮海漁業の巨主とも云ふべき明太魚は云ふ迄もなく鯛、鰊、鮭、鰤、鰛其他四季各種の漁業に適し而かも豐富にして無盡藏とも稱すべく試みに之れを地方別にすれば豆滿河口より清津に至る間の鰤、鮭、鰊、海參及びこつく貝又は清津より南下して城津に亘る間の鰯、明太魚、鱈、鰛等城津以南西湖津間の明太魚、鮭、鰛等なる元山沖一帶鰊、鯛、鯖、鰤等の盛漁地にして殆ど無盡藏とも云ふべきなり事情斯の如くなるを以て我疲弊せる内地の漁夫をして新たに漁村を作らしむるには誠に理想的の好漁場にして何人も詳知する處にも係はらず今日に至る迄小規模なる個人的經營以外何等施設せられたるものなく偶々大仕掛けに從事するものありても多くは失敗に歸し居れりこは畢竟交通の不便販賣機關無き爲めに需用供給は伴はず當事者の勞力に對し相當の報酬得られざる事と而して一は從業者が沿海の事情に精通せざるが爲め失敗して再擧を企つるの忍耐と資本を缺き居るが爲めにして決して薄漁の結果と云ふにあらず更らに詳說すれば内地人の漁業者は内地と同然なる考を以て不適合なる漁具漁船等に依り又た製造業者と連絡なき爲め急速に漁獲物を處理する事能はず或は準備悪しき爲め寒氣に堪へ得ざりし等の理由にして實に遺憾の事なりと云ふべし然るに佐竹作二郎、桂二郎、安藤謙介氏等外十數の重なる實業家と朱秉晥、趙鎭泰等の朝鮮側有力なる資産家合同して發起人となり資本金二百万圓と云ふ漁業には比較的豐富なる資金を以て北豆滿江より南元山津に至る百餘里の沿岸に漁場、販賣場、根據地を撰擇し大規模の漁業に從事せんと企劃せられつゝあるは誠に慶賀すべき現象にして同會社にては豫じめ十分に前記の諸點に付て攻究し今後夫等不備の點を補足すべき機關の中軸となり又た北朝鮮漁業の指導者として其開發に努むると同時に成るべく安固なる方法に依り利益を收めんとするの考へならん云々

●校長會議諮問事項

別報各道實業學校長會議に内部より提出したる諮問事項全文左の如し

一、修業年限學科目及其程度に對する意見如何
附學科進度及學科に對する學員の好惡如何
二、實習の成績並に之に對する學員の意向如何
三、校務分擔並に職員勤務の狀況如何
四、學員訓練上特に施設したる事項如何
五、學員用教科書の有無並に之に對する教授、狀況及教科書編輯上に對する意見如何
六、地方實業狀況並に實業學校に對する人民の意見如何
七、地方勸業機關との連絡狀況並に地方產業開發に對して施設若くは計劃の事項如何
八、實業補習學校設置に關する意見如何
九、從來朝鮮の積弊矯正上特に施設したる事項如何



山中鹿之助

六十一回　西尾麟慶演

山中鹿之助は毎月三日には月を拜し、武運長久を祈る、然るに三ヶ月の間自分には更に三日月が見へません、別に曇りし模樣も無し、晴渡つた空に三日月の出ぬ譯はなし、妻に見へて已れ一人に見へざるは誠に不思議、是ア已れの身に凶事ある事を知らせ給ふかと、是から後病氣と稱して一室に引籠り、成べく他出致さぬ樣心懸けて居りました、偖前回に申上げました尼子の家老九郎左衛門、鹿之助の爲に君寵を奪はれ心面白からず、是も鬱々として其日を送ります、然るに尼子の敵たる藝州の毛利元就、一度び雲州富田の城を奪ひ取りしが、鹿之助の爲に取返へされ當時は尼子義久在城と聞き、何にとかして富田の城を奪んと夫れのみ考ね居ります、恰もよし鹿之助が引籠り居る由殊に尼子の家老尼子九郎左衛門が鹿之助を怨み居ると聞き、謀計成れりと喜び、已れが平常側近く召使ふ德市と申す、盲人の琵琶法師が御座ひます、是は盲人ながら中々の人物で、思慮才覺も人に優れ、若し目が明て居たら一城の主人にもなれべき者、元就は豪傑で御座ひますから、一藝一能ある者は、例令盲人啞者に至る迄も能々目を懸けて召使ひます、或日德市を奥へ呼び寄せ 元「德市、其方に頼み度事あるが、承知致し呉れるか 德「是は又改まりました仰せ、永年御恩を受けました私、君の爲には水火へも赴きます、然し御覽の通り盲人の事なれば、御役を首尾能く勤め終せますか其程も判りませんが、何御用で御座ひますか仰聞けられたし 元「餘の事でもない、其方が盲人故此の大事を申付る、目明では勤らん 德「是は又否な仰せ、盲人が宜しひとは如何なる御用で御座ひますか 元「實は其方も知る如く、尼子とは年來合戰已む事なく、一勝一敗今に至つて勝敗を決せず、然し尼子義久は恐るゝに足らぬが、上月に能在る山中鹿之助は、蜀の孔明、宋の岳飛にも勝る智謀優れし者彼を無き者に致さねば勝を得る事難し就ては尼子の家老九郎左衛門と彼とは確執致し居る由、夫を幸ひに其方に一つの謀計を授けるのぢや、九郎左衛門に執入り、然してケ樣〳〵取計へと秘密を明しました、ソコデ德市には深山の金を與へ、藝州を出立さして雲州富田に遣はす德市は琵琶法師で街道を流しながら富田へ入つて參りました、何にしろ戰ひが暫く治つて居るので、尼子の家來は無聊に堪兼ね、三々五々今日は河礁に往くとか、明日は山へ兎を獵りに往くとか、又は城下に酒を飲みに往くとか、何れも閑で御座ひますから、日々遊びくらして居ります、或時城下の小松屋と云ふ小料理屋へ尼子の家來七八人、頻りに酒を飲みながら ○「中村、何うも斯う戰ひが無いと吾々の樣な豪傑は腕がムヅ〳〵して困る鳥を取つた獸を打つた位ゐでは此の勇氣を鎭める事は出來ぬ、何か工風は無いか 中「左樣、戰さを祈り出す譯にもゆくまい、と云つて大將の下知も無いに勝手に戰さをする譯にはゆかない困つたな ○「何時始まるだらふ、中「當分戰さはおるまい ○「昔時玄德が厠に參つて、用を達す時久しく馬に乘らぬ爲め、髀の肉の減たを見て歎ひたと云ふ事がある、如何にも英雄は左うありたいもの、戰さが無ければ吾々の商賣不繁昌だ、何うかして始まれば宜ひナ大言壯語、關羽樊噲をさし上げ坂田の金時をふまへてせり出す樣な大きな事を云ふ、スルと此の小松屋の裏手に當つて、聞へる琵琶の音、如何にも美事で御座ひます、早くも之を聞きました一人 ○「暫く話をするナ、アノ庭の離れから琵琶の音が洩れ出るではないか ○「左樣〳〵、拙者も最前より耳に致した、鳥渡主人を呼で何人だか尋ねて見やう △「夫れが宜らう殊によつたら是へ招で一曲奏てもらひたい ○「夫れが宜しい、コレ〳〵主人 主「何か御用で ○「向ふの離れから妙なる音色が聞へるではないか 主「何が聞へます ○「琵琶の音がするではないか 主「イエアノベロン〳〵ですか ○「何んだベロン〳〵とは





東京電報（十九日着）

▲侍從武官の差遣　來る二十一日擧行の大驅逐艦山風の進水式には商侍從武官を差遣せられ出羽司令長官海軍大臣の代理として進水書を代讀す

▲男爵議員選擧　詔書を以て來る三月十四日貴族院男爵議員一名欠員選擧を命ぜられたり

▲政友會の決議　政友會東京支部大會の發表せる決議文如左

一、立憲政治の完成を期するは我黨綱領の基礎なり然るに現内閣の爲す處は武斷專制に失す當支部は我黨の主義に遵據し憲政擁護の任に當らん事を期す

一、大審院の特別裁判に屬する被告事件を發生せしめたるは立國の大本を傷けたる一大恨事にして現内閣の責任なりと認む

▲國民黨の宣言　十九日の大會にて發表の國民黨宣言書は現内閣ノ政治が非立憲的にして文武の權衡を誤り内政の措置宜しきに適はず故に我が財政大に紊れ國民塗炭に苦み外交亦萎靡振はずして國威爲めに損傷すと盛に當局の失政を糾彈したり

▲國民黨と廣軌案　國民黨にては鐵道廣軌案に關し黨內意見分裂の模様あり

▲三大臣の伏奏　桂首相は本日岡部法相、渡邊宮相と共に參內天皇陛下に謁見し幸德事件の判決顛末に關し具に伏奏する所ありたり

▲共產主義者判決　先頃より大審院に於て特別裁判に附せられありし幸德傳次郎外二十五名の無政府主義者に對する判決は今十八日午後二時大審院特別刑事部に於て裁判長鶴判事以下志方鶴見末樹大倉常松遠藤の各判事列席左の如く言渡ありたり（至急報十八日午後三時着）

高知縣平民　著述業　幸德傳次郎
明治四年九月廿三日生
京都府平民　無職　管野すが
明治十四年六月七日生
岡山縣平民　農　森近運平
明治十四年一月二十日生
山梨縣平民　機械職工　宮下太吉
長野縣平民　農　新村忠雄
明治二十年四月二十六日生
福井縣平民　草花栽培業　古河力作
明治十七年六月十四日生
東京府平民　無職　奧宮健之
安政四年十二月十一日生
高知縣平民　活版職　阪本淸馬
明治十八年七月四日生
和歌山縣平民　醫業　大石誠之助
慶應三年十一月四日生
和歌山縣平民　雜業　成石平四郎
明治十五年八月十五日生
和歌山縣平民　僧侶　高木顯明
元治元年五月二十一日生
和歌山縣平民　同　峯尾節堂
明治十八年四月一日生
三重縣平民　農　崎久保誓一
明治十八年十月十二日生
和歌山縣平民　古物商　成石勘三郎
明治十三年二月五日生
熊本縣士族　新聞記者　松尾卯一太
明治十二年一月二十七日生
熊本縣平民　無職　新美卯一郎
明治十二年一月十六日生
熊本縣平民　無職　佐々木道元
明治二十二年二月十日生
熊本縣平民　無職　飛松與次郎
明治二十二年二月二十六日生
神奈川縣平民　僧侶　內山愚童
明治七年五月生
香川縣平民　金屬彫刻業　武田九平
明治八年二月二十日生
山口縣平民　電燈會社員　岡本穎一郎
明治十三年九月十二日生
大阪市平民　鐵細工職　三浦安太郎
明治二十一年二月十日生
高知縣平民　神戶湊川病院事務員　岡林寅松
明治八年一月三十一日生
高知縣平民　養鷄業　小松丑治
明治九年四月生

以上二十四名は死刑に處す

長野縣平民　農　新村善兵衛
明治十四年三月十六日生
懲役八年に處す
北海道小樽區平民機械職工　新田融
明治十三年三月十二日生
懲役十一年に處す

▲外相の通牒批難　十八日を以て判決の宣告ある大陰謀事件に關して小村外務大臣が十六日各國大公使に對し通牒を發せるは實に不可思議極まるものなり抑も外務大臣は何人より該事件に對する裁判上の內容を聞知して殆ど判決文に等しき通知を各國政府に爲さしめたるか裁判所が之を廻付したるものとせば裁判所構成法第百二十一條の責任は免れず政府自ら之を爲したるものとせば日本帝國は裁判所以外に內閣自ら裁判を爲す機關ありと云はざる可らず何れの點より見るも本事件は憲法第五十九條裁判所構成法第百廿一條に違反したるものなりとの批難あり

▲桂首相の全快　桂首相は過般風氣の爲め引籠中の處全快したり

▲遣英艦の準備　英國新皇帝戴冠式參列艦鞍馬は目下橫須賀に於て公試運轉を爲しつゝあるが遲くも二月上旬迄に全然新艦長石井大佐の手に移り乘組員の補充を行ふ由にて同利根は佐世保に在り之れが艦長山口大佐は渡英準備に着手せり

▲司令長官交迭　舞鶴鎭守府司令長官左の如く交迭したり

補舞鶴鎭守府司令長官　海軍中將男爵　三須宗太郎
舞鶴鎭守府司令長官海軍大將男爵　片岡七郎
免本職待命仰付けらる

▲大巡洋艦起工式　英國に注文したる我裝甲大巡洋艦は十七日午前十一時英國にて起工式ありたりとの公報達したり

▲大日本農會　大日本農會にては今十九日より二十二日迄四日間赤坂溜池三會堂に於て第四十回農產品評會を開會す其の出品物は全國各著名の產地は勿論臺灣朝鮮清國等より極々珍らしき農產物の出品あり

▲滿洲ペスト猖獗　滿洲に於けるペストは益々猖獗にしてハルビン支那街にては日々百名以上の死亡者あり防疫の功殆んどなし

▲小倉市の大火　福岡縣小倉市に大火災あり全燒家屋百八十遊廓は全滅したり

雜　報

●昌德宮の午餐　李王殿下には十九日正午昌德宮に於て京城の朝鮮貴族の重なる者を昌德宮へ召されて午餐會を開催されたりと云ふ

●總督東京着歸　寺內總督は十九日午後八時三十分京都發列車に搭乘二十日午前九時四十分東京に到着の旨其筋へ電報ありたり

●取調局委員囑託　去る十七日付を以て十九日左の諸氏を取調局委員を囑託されたり

勳三等　朴承祖
　　　　宋榮大
朝鮮總督府取調局委員を命ず
朝鮮總督府　劉猛
中樞院贊議
同中樞院副贊議　李始榮
同　上　具義書
朝鮮總督府取調局委員を囑托す

●來年度の補助費　來年度に於ける朝鮮豫算の補助費は合計百四十三萬六千八百九十六圓にて此內譯は敎育費を最高とし東拓會社、勸業、沿岸航路及韓國銀行等の補助なりと云ふ

●任用・指定學校　最近制令第七號を以て帝國大學及官立專門學校又は朝鮮總督の指定したる學校に於て三年以上法律學科を修め卒業したる朝鮮人は文官高等試驗委員の詮衡を經て特に之れを朝鮮總督府判事又は檢事に任用し得べきを規定したるが十九日總督府告示第七號を以て左の學校を指定したり

私立早稻田大學　私立日本大學
私立慶應義塾大學　私立關西大學
私立京都法政大學　私立明治大學
私立中央大學　私立法政大學

●實業學校長會議（第二日）　內務部長官室に於ける各道實業學校長會議は十九日も前日に引續き午前十時より開會學務局長以下隈本小田の兩課長各學校長學監列席內部提出の諮問事項に付き協議し午後より總督の諮問事項及各學校長提出の協議事項に付協議し午後五時散會したり

●學校長會議終了　別報內務部に於ける各道學校長會議は豫定の通り議事進行したるを以て二十日同會議を閉會すべしと

●漢銀と貴族勸誘　增資を決定したる漢城銀行は其增資募集申込を來る廿一日迄に限り目下頻りに人を派し各貴族に對し種々の甘言を以て應募を强ひつゝある由なるが貴族は餘り賛意を表し居らずと

●百三十銀行の取引先擴張　百三十銀行にては新春早々左の各地に取引先きを擴張したり　開城、新義州、安東縣、羅南、城津、清州、太田、其他日本內地にて龜山、郡中の諸地方

●各銀行金融に付き　昨報各銀行金融中金銀出納高とありしは出納高中の出金のみを計上せしものなり爲念茲に訂正す

●經濟協會例會　朝鮮經濟協會は來廿三日午後六時より京城ホテルに於て月の例會を開催する筈にて本日市原幹事長より夫々通知を發したるが尚は當日は會員相互產業に關する意見を交換するの外、農商工部技師齋藤音治氏は半島の山林事業と云ふ問題にて一場の講演をなすと

●別口の朝鮮棉花　中橋德五郎氏等の計畫せる別口朝鮮棉花株式會社は先般小谷某氏を渡鮮せしめ棉花栽培地買收の豫備交涉並に發企人の勸誘に努めしめたる等此程に到りて發企事務大に進捗したるを以て目下南清巡遊中の中橋氏歸朝の上來三月頃迄に發企人全部を發表し次で株式募集の手筈となるべしと而して既に發企人たる承諾を得たるもの三十餘名に達し內男爵趙羲淵、李允用、李夏榮及び白寅基、趙鎭泰、安國全、李根培等の朝鮮人龍山の德久、京城の關、梶原、山口釜山の迫間、仁川の竹田、桑原、加來太田の內藤、光瀨氏等の在鮮邦人實業家は其主なるものなりと云ふ

●道長官醫院參觀　忠清南道長官朴重陽幷に全羅南道長官能勢辰五郎の兩氏は十八日總督府醫院を參觀したるが各科診察所及病室、醫學生徒並に朝鮮人看護婦生徒の敎授、施療病室の狀況等に就き藤田院長の案內にて一々說明の勞を採りしに兩氏は治療機關の完備及生徒等の學業進步の狀を感賞せられ慈惠醫院指導の爲め大に得る處ありと感謝せられたりと亦同日農商工部の會議に列せる技術官諸氏の參觀せられたるに對しても院長親しく種々說明の勞を執りたりと

●稅制主査會流會　十八日午後一時より當民團樓上に於て開議の筈なりし稅制調査會主査會は欠席者多く終に流會となれり尚は次回の會期は未定

●民團會計檢査　當民團議員中より成れる七名の會計檢査委員は今十九日より民團に於て四十三年度の會計檢査を開始せしが明後廿日にて結了すべし

選擧界の側面觀

▲龍山側の活動　龍山側は昨紙所報の如く四分五裂の各派を一團とし正々堂々たる陣形を張るべく決し選擧事務所を民團出張所橫手に開設せり而して京城門外派と提携し龍山より六名門外より四名を選出する計劃を立て內々兩地の有力者會合して意見の交換を行ひつゝあるが多分圓滿に成立すべしと云ふ

▲鐵道側の交涉　龍山の勢力消長は鐵道側の向背如何に在り依て同地有志者は別項の如く一致協力を決定すると同時に直ちに鐵道側に人を派して從來の如く同局所屬員より一名の候補者を出さしめ更に官吏有權者に對し投票權の行使を許可せられたく交涉する處ありたりと

▲政務總監と選擧　山縣政務總監は這回の選擧に就き多大の注意を拂ひつゝあり而して龍山側の申請に係る投票場分設の件は遂に總督府に達したれば同總監は十八日午後關係部局長を始め檜垣道長官大庭府尹古城民長を其公室に招致して諸氏の意見を徵し日沒頃迄協議を重ねたり其結果今明日中に何等かの指令を與ゆべき筈なり

▲選擧と新年宴會　在京城大分縣人は十八日午後八時より有明樓に例年の通り新年宴會を開き時恰か選擧に際するを以て同縣人會は同縣出身候補者古城和田梶原氏の爲めに極力應援すべく決し又長崎縣南高來郡出身者は來る二十四日萬千閣に新年宴會を開く由其發起人は伊藤友松林田金雄藤井乙吉淺蕊太郎鹽見榮五郎の諸氏にして這回の選擧に就ては一致團結以て之に當るべく協議する筈なり

▲各部委員會合　各部は選擧競爭愈々激甚なるべきを思ひ此際區々たる感情の衝突の爲めに將來永遠の交情を疏隔せしむるが如き事ありて相互の不利益尤大なるを以て宜しく公明正大なる爭を爲すべく中部よりは山口氏を東部よりは釘本氏を西部事務所に派し意見を交換せり

▲西部の支部設置　不知火館を本陣とせる西部有權者選擧事務所は更に太平町淺蕊太郎氏方に門內支部を又南大門外野村吉三郎氏方に門外支部を設置せり

▲東部選擧事務所　東部警察期成會は二十一日より選擧事務所を有明樓に開設すべく準備中なり

社　告

豫選投票締切延期

吾社計劃の京城民團議員豫選投票は大に市民の注意を惹き其結果如何は直に鼎の輕重を問はしむるに到り是れ實に吾社望外の成功として聊か誇稱するに足るべきを信ず而して豫定の締切期日は愈々今二十日なりしが顧みれば選擧界の形勢は混沌として朝に夕を測られず之が爲に多數有權者は其の適從する處を知らざるの狀態に在り此際一般の指南針たるべき吾社豫選投票は其締切聊か早きに失するの憾みありとて多數讀者より其延期を要望し來る事頻々たるより依て折角讀者諸君の愛顧に酬ゐん爲め玆に締切を

來る二十五日正午

と改定せり讀者乞ふ之を諒せよ

民團議員豫選投票（十九日正午迄着票通計）

二六一五票	三好和三郎
二四五一票	和田常市
二三七九票	古城梅溪
二三七四票	山口太兵衛
二三六八票	小林藤右衛門
二三三七票	岩田仙宗
二〇五七票	大橋清三郎
二〇一六票	中村再造
一九八五票	林田金次郎
一六八五票	增田三穗
一六七九票	城六太
一四三七票	曾我勉
一二四一票	田中始一郎
一二〇三票	皆川廣濟
一一八五票	池田長兵衛
一一八三票	古迫角次郎
一一五七票	秋吉富太郎
一一三一票	近藤佐五郎
一一二六票	田村義次郎
一一一八票	伊藤友松
一〇三二票	釘本藤次郎
一〇〇〇票	井出三郎
一〇〇〇票	榊原長緒
七八七票	[illegible]繁太郎
七七九票	中島司馬之助
七六七票	梶原末太郎
七六三票	大坪文吉
六五一票	大村保太
五七三票	深水清
五六七票	大村百藏
五四二票	池田長次郎
五三六票	海津三雄
五三一票	佐々正之
五二八票	進辰馬
五一一票	原勝一
五〇三票	佐野彥藏
五〇〇票	木島平兵衛

十票在川武彥、八票久能省三、三票內田竹三郎、一票堤重四郎、一票田中玄黃、一票橫山彌三、

注意　前號に發表せし得點者にて點數の其儘なるものは本日の表に加へず尚本日よりは五百點以下の得點者は新候補者以外は不掲載

●藥師川中佐出張　憲兵隊長同中佐は十九日午前十時南大門驛發列車にて仁川に出張せらる

●記者團新年宴會　在京城通信員及び各新聞雜誌記者は十八日午後六時より壽町井門樓に新年宴會を催し賑引の餘興あり非常の盛會を極めたり

●蒼馬山の失火　十九日午前六時蒼馬山壽町料理店吉川榮方釣ランプより出火全燒三戶半燒二戶仲居一名燒死し同七時半鎭火せり

公人私人

▲脇坂寬（陸軍技師）十八日入京東海新報
▲阿部秀次郎（韓銀釜山所長）同上不知火
▲赤松時園（漢湖銀行忠州所長）三日月
▲北原君次郎（清州同）同
▲向坂幾太郎（水原模範場技師）入京中の處水原へ
▲本田幸助（同場長）同
▲小谷千万吉（平壤鑛業次長）平壤へ

相場電報

▲大阪株式（十九日）（明治町西村支店着電）

銘柄		（前場）	（後場）
神戶電鐵	寄	三八、七〇〇	三八、七〇〇
同	引	三八、七〇〇	三八、七〇〇
京阪電鐵	同	六一、八〇〇	六二、二〇〇
同	同	出來不申	六二、〇〇〇
鐘淵紡績	同	一〇五、九〇〇	一〇五、九〇〇
同	同	一〇五、九〇〇	一〇六、一〇〇
日本郵船	同	出來不申	出來不申
東京株新	同	二二三、六〇〇	二二四、四〇〇
同	同	二二四、四〇〇	二二四、二〇〇
大阪株式	同	二三四、四〇〇	二三四、〇〇〇
同	同	二三三、八〇〇	二三四、四〇〇
同直取引	同	二三三、七〇〇	二三三、七〇〇
同	同	二三二、三〇〇	二三三、〇〇〇

▲大阪期米

●十八日前場　一月止十四圓六十一錢五錢▲二月止九十五錢▲三月止十五圓十五錢▲後場　一月寄十四圓六十四錢▲三月止十止六十四錢▲二月寄九十七錢▲出來不申▲三月寄十五圓十六錢▲止十六錢

●十九日前場　一月寄十四圓七十一錢▲二月寄十五圓十錢▲三月寄二十七錢

▲仁川米豆取引

●十八日後場　一、二月出來不申▲一月寄十四圓六十八錢▲最高七十九錢▲最低六十八錢▲止七十八錢

●十九日前場　二月出來不申▲一月寄十四圓十錢▲最高九十七錢▲最低九十四錢止九十六錢

▲京龍兩驛の貨客

▲南大門驛乘降客　十八日の乘車客　五〇一　下車客
乘車賃金　一、二七二、九二
▲南大門驛荷扱高　十八日の分　發送　二二五噸　到着　四一〇
貨物賃金　八八七、二七
▲龍山驛の乘降客　十八日の分　乘車客　一四三　下車客　一八
乘車賃金　一五二、二三
▲龍山驛の荷扱高　十八日の分　發送　九六噸　到着　一九〇
物賃金　二八三、二三

▲京城手形交換高
一月十九日　金額　一〇五、〇三七、二五　枚數

▲治外法權▼　ペストの侵入を防ぐが爲め當局が新義州に檢疫所を設け滿洲側よりの入國者を檢疫することしたのは至當な措置だ、此至當な措置に對して不服を云ふ者は一人も無い筈だ、ダカラ國、領事官、憲兵は檢疫法の勵行に勉むべしだ▲聞說ペストは非文明病だと、コワ西洋醫者の言草だが聞いて見ると成程ヲウかぜも思ひアー非文明病其本家が印度でヲ地續の諸國、ペストは亞細亞に不名譽な病氣だ▲我內地のペスト發生の系統を尋ねるとイツも印度淸から來るのだ、而かも此の非文明病が內地へ侵入するのは神戶、長崎門司其他に於て檢疫の勵行が足らぬからだ▲記者の如きは今より十年前布哇に在つてペストの爲に苦がされた經驗を有した、時の布哇政府は日本人町を全部燒拂つた、併し非文明病を發生さした悲しさ布哇政府の爲すが儘に任かせ甘んじて大損害を受けた▲今や半島は將さに非文明病に襲はれんとして居る、幸ひに官憲意を防疫に注ぐ日本人も朝鮮人も官の意を體して防疫に勉むべしだ▲農商工部技術官會議、各實業學校長の會議、世は愈々產業の世となつた、斎へ產業關係の人▲龍山側民會議員の候補者が海津一人では心細いと思つて居た、トコロが團體が起つて數名の候補者を立てることになつたソウだ、納稅額と代議員數、コワ龍山側の忘れてならぬ事だ▲從來龍山側はドウヤラ自暴自棄に傾ケた、併し自暴自棄は自治政の敵だ、龍山側たる者堂々の陣を張つて立派に爭ふべしだ。

特別廣告

京城居留民團民會議員 西部候補者（イロハ順）

池田長次郎君
大村保三太郎君
海津三雄君
高橋章之助君
曾我勉君
中島司馬之助君
松浦源治君
深水清君
榊原長緒君
三好和三郎君

右推薦候
明治四十四年一月　日
西部有權者選擧事務所

六〇六號に就て（二）

總督府醫院 皮膚科長醫學士 [illegible]

所謂六〇六號は化學上の名はヂオキシヂアミドアルセノベンゾールと云ひ[illegible]サルバルサンと命名して販賣[illegible]

新薬は黄色の粉末

[illegible]

梅毒患者の福音

[illegible]

檢出をやり次に血清診斷法を行ひ病原虫

[illegible]

……法に取り掛るが順序であるから血清診斷法をやる事が必要なものですから私は若し難きもので其の上血清診斷法を行ひ暫く水銀療法をして梅毒の有無を見、黴毒である事を診斷して此の療法を施すと思ひます之に反して黴毒即ち臨床上の症状のみには血清診斷法を行ひ此の療法を取捨する標準とするのです尚診斷上重要な事は

心臓病又は高度の血管硬化症等の血管系統の病氣であり

ます此等の病を有て居る患者には此の療法は危險です今日迄の報告を綜合して見ますに一として此の療法の効を否認するものなく殆んど皆此の新薬の成功を謳歌して居る所は迅速に病原虫「スピロヘータ」を撲滅するもので又は潰瘍でも發疹でも消散し今迄行れました所の効力の發現緩慢で時効を見ないと云ふ如きものに在ては今迄經驗した其放效力の點に於ては素より比較し得べくもなき事は今日迄の所で居ると云ふのは來る所です是れ實にエールリッヒ先生の賜物で黴毒患者の一大福音であります

● 六〇六號實驗　總督府醫院に於ては十八日内臓梅毒の患者三名に對し清水學士と共に「エールリッヒ」氏の六〇六號液の注射を實施

せられたり患者は少しも苦痛を感ずることなく何れも感謝し居れり

活動寫眞　役面子

十九日 朝の南大門驛

曉の色は多きれの街の彎曲せる家並を照し、人は蘇生りたらん如く、戸を繰る音車の響き、次第に活動の天地となつた、僕一人乘つた電車は疾風の如く、消へやらぬ霧に包まれた南大門を左に見て停車場前へと止まる、驛内には未だ人が見へぬ、朝日は融くるかのように薄き光りが流れて、細塵が散つた風は弱い、見れば手荷物扱所内に木箱が山る、門司市郵船會社氣付

常陸丸事務長 白井耕藏 殿

京城 大觀亭 和田英田と認めてある、京城南山町二丁目、古賀キチの木札ある行李は男名前の行李と共に預けて入れた、一等室には、内藤朝義との名刺あるカバンの傍らに、南滿洲鐵道株式會社調度課計算係

岡田次郎彦 と肩書長き信玄袋がある、向側のベンチには、三

日月旅館、村長樣との下紙のある大包みがある、

忠淸南道長官、朴重陽 氏は歸任すべく屬官日人三四名を随へて來られた、山田孝一郎 と書したカバンを赤帽に托した人を最後として、

午前九時、釜山行列車は、緩かに長蛇の動ける如く進み放れた、

同九時十分、新義州行列車も白旗一旋徐々に離れ行く、驛を出て、遙かに南山を眺むれば、冬とてもなき松はわらはに旭を浴びて、空には、瑠璃の雲が浮く。

仁川娼妓の逃走

▽日進樓靜子女郎

靜子と申さば梓樓御承知の仁川は敷島遊廓日進樓の抱娼妓にて福岡縣久留米の產にて本名倉田ヨシノ（二三）この妓に如何なる病が付いて居るのか恰度昨年の今頃も京城までドロンを定め込み其の筋の手にて樓主に引渡されし程の妓にて大體この妓は親の爲めの苦界勤めとて裏の方より聞けば實に同情の筋もあるとか御面相は十人並にて口元に言ひ知らぬ愛嬌ありとて隨分廓内にて評判高き藝者であるが十六日午後五時頃長襦袢羽織を敷島黑門前の某藥店

模範の里長　高陽郡下

道面三松里と云ふは憲兵分遣所を距る約半里にして高陽街道に沿ひ戸數六十七八口約三百を算する小村寒里に過ぎざるが其里長金鍾陳と呼ぶは五十三年の知命を過ぎたる身の上なれど文明の敎育に浴せし青年以上にも立勝りて能く帝國施政の方針を理解し其職責に忠實にして居常里内の狀態か毫も改善の緒に就かざるを憂慮し日夜奔走して村政に盡瘁し居るより模範的里長の評判高く客冬檜垣長官巡視の際にも郡内一般に對し國旗を揭揚せしめ且つ三松里民と大書したる高札を押立て里民の先頭となりて約半里餘も出張して歡迎敬意を表しければ當時道長官も郡衙に接見して面のあたり其里治忠實の旨を賞揚したる事ありしが今回舊曆の年末に當りては一の廣告文を里內ノ要處に揭示し懶惰の人民を訓誡し兼ねて殖產興業の思想啓發に力めたれば郡衙に於ても一再ならぬ其有益の行動と熱誠の措置に感服し模範里長として弘く世に彰表せんとて昨今其詮議中なりと



議員候補者の腰の低さよ

● 養父より說諭願　故郷を出でゝ異域に放浪し音信打ち絕へて其筋の手を煩はすもの多かるは慨かはしき事ならずや原籍長崎市十善寺中野十九番戸當時龍山漢江通二丁目前田鹿藏事吉田鹿市（三六）は又此の分に漏れず終に養父岩右衞門より歸國若しくは送金する樣其筋に願ひ來りしを以て龍山憲兵分隊にては直ちに本人を召喚し篤と說諭の上請書を出さしめて放還せらる

● イヤハヤ誠に　古市町深澤豐太郎方居住岐阜縣人岡山義雄（二七）は十九日午前一時頃南部會賢坊石井洞三十四統一戶酒幕に至り娼妓命山月（二三）を敵妓に一時間一圓の定めにて遊興中如何にしけん命山月は悲鳴を揚げしにぞ樓主入來りし爲め岡田は目的を遂せず室內にありし衣類を持ち警察に密深實を自首すと大貞洞派出所に行き西署にて反對に說諭さる

● 大賊の判決言渡　島根縣簸川郡平田町當時住所不定三原富太郎（四五）は前科七犯の曲物にて殆んど監獄署を我家の如く爲し居るが昨年十月內地の監獄出獄後渡鮮龍山本町三丁目傘製造業某宅に厄介になり居る內前科數犯の曲物吉田竹次郎なる者と知己となり共謀して龍山漢町大山新藏方漢江通り煉瓦製造八德久米藏方外數軒に忍入り金品五百餘圓を竊取龍山署に逮捕され檢事局に送られしが十九日京城區裁判所に於て懲役十年に處せらる

● 公文書僞造行使　福井縣大飯郡本鄉村當時仁川寺町二丁目大工兼土木請負業荻野寅吉（五三）は鎭海灣海軍臨時建築支部に於て工事入札擧行に入札なさん爲め仁川民團より納稅證明書を取り僞造行使したる事件京城地方裁判所に於て懲役八ヶ月に處せらる

● 淸人の阿片吸飮　南部小公洞三百號淸國人劉錦僧（四三）は阿片吸飮の現場を南部署巡査に認められ告發さる

●● 壽座●　同座廿日の替狂言は相馬之旗揚白井太荒郎一代記なり

● 鮮人の餓死　龍山京町四六番戶曾我部昇方軒下に十八日午後六時三十分住所不明四十六位の朝鮮人男打ち倒れ苦悶しつゝある旨山下町憲兵出張所に屆出でたるを以て夫々手當

● 耳鼻咽喉科醫院　福岡醫科大學耳鼻咽喉科に勤務專ら同病研究中なりし醫學士伊藤應隆氏は來る廿二日より日の出町（日の出橋際）に於て開業治く診察に應ずる由同病患者の爲め一大福音と云ふ可し

● 氷凍せる本町通り（二）　エス生投

郵便局の前迄來ると局前は甚しく氷が踏み碎かれて居る、右の方の雜物屋の前はさ、見るに一向壞れて居ない、ナなく不可もなしで、ブリキ屋臨時休業の藥屋前は足元御用心で、れ隣りの留屋前が一寸歩行きよかつた、向側の高木商店の前はウンと滑る、龜屋支店に文林堂前は比較的滑らない、

ル〳〵滑つて居るなど思ふ、瞬時にナンダ馬鹿〳〵しい人や車の通行が繁ければ路の氷が碎るは當然じやあ無いか、通りが少なければ破れない必然じやあ無いか、コンナ事を物々しく鬼の首でも捕つたように考へて居た自分は余ッ程馬鹿であると思つた、だが然し此儘無意識に歩行ッ放なしするも何だか物足らぬ心地もした。で何か此奴か問題にならぬ者かと考へて見たが有るは〳〵ツウントト有る、即ち路の氷が碎けている家は言はずと人出入が多いに極つて居るツル〳〵滑る家は反對じや、探つて以て商店の繁閑をトするに足るべし、善哉々々、我身ながら天晴妙案と胸の裡で兩手を打ち、賴まれもせぬに、課苦勞にも二丁目から六丁目迄の間を此新發見？に依づて各商店の榮枯盛衰繁閑忙散を實見した結果がサツトこうだ、（斷つて置くが二丁目から六丁目迄殘らずの商店を一々書くと一頁や二頁や直ぐ埋れて仕舞ふから此處には著名な商店然も筆者の記憶に尤もよく止まつた者のみを揭ぐ）二丁目右角の橫山家具店は旭町からの曲り角に係はらず頗る滑る事夥しい、之に反して少さい店だが向ふ側の日下部濱物屋の前は滑らなかつた、ソレカラ富田靴店丁字屋、金光堂、惠坂吳服店、陶榮會社佐藤牧の前は一向氷りが破れて居ないが、夏川、山玉足袋店、日希商會百三十前は能く碎かれて居た、左側では日韓書房辻屋の前は尤も能く破れて三越の前が中庸、日韓書房西隣り下駄屋から洋服屋自轉車屋前迄は、ツル〳〵の側、佐野齋、江戶川、が可も

紘吟會例會開催

來る廿二日（第四日曜日）新年宴會を兼ね第二回紘吟會開催可仕候條本紙愛讀者及び投書家諸君萬障御繰合せ奮つて御賛同御參會被成下度候

課題　元結　雪　豬（情歌）
日時　廿二日正午より
場所　南山町　丁目初音
會費　貳圓（當日御持參の事）
（追而御出席の御方は前日正午迄本社へ御通知を乞ふ）

正月　幹事

株式會社漢城銀行第十期貸借對照表

明治四十三年十二月卅一日

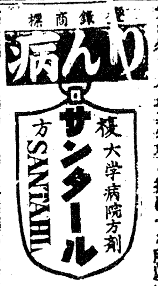
負債		
諸預金	七一五、五一〇・	
代理店勘定	五八、八八〇・	
貨幣整理基金	五、六二三・	
政府貸下金	一〇〇、〇〇〇・	
資本金	三〇〇、〇〇〇・	
積立金	七四、〇〇〇・	
未拂配當金	二、六二[illegible]	
他店ヨリ借	三、一二九・	
前半期繰越金	四、八二二・	
當半期純益金	一八、〇一八・	
合計	一、二八〇、二四六・	
資產		
諸貸金	八四六、一七九・	
支拂送金手形	一、五二六・	
株券及社債券	五二、九〇〇・	
土地、建物什器	三一、八九三・	
未收入資本金	二二五、〇〇〇・	
他店へ貸	九、八七二・	
保管貨幣	五、六二二・	
預ケ金及金銀	一〇七、二五一・	
合計	一、二八〇、二四六・	

損益

一金五万九百四十六圓十三錢　當半期總益金
一金四千八百二十二圓七十四錢　前半期繰越金
合計金五万五千七百六十八圓八十[illegible]
內
一金三萬二千九百二十八圓〇五錢　當半期總損[illegible]
差引
一金二萬二千八百四十圓八十二錢　當半期利益金
此配當計算左ノ如シ
一金一千圓　積立金
一金五千六百二十五圓　株主配當金年一割五[illegible]
一金二千八百圓　役員賞與金
一金一万四千四百十五圓八十二錢　後期繰越金

右ノ通リニ相違無之候也
明治四十四年一月
株式會社 漢城銀行
長取締役男爵 李允[illegible]
專務取締役 韓相[illegible]
取締役 趙鎭[illegible]
支配人 李升[illegible]
前記各項ヲ調査シ其正確ナルヲ保[illegible]
監査役 鄭永[illegible]
追而監査役滿期ニ付改選シタル處[illegible]任セリ

●諸公債諸株券 現物賣買 迅速確實に御取扱可申候 兼業 内國洋服御小賣 諸官衙御用達 京城本町三丁目 大阪野村徳七代理店 田中友吉商店 電話九三九

りん病患者に警告す
サンタールが淋病に特効ある事は今や天下の認識する處となれるも而かも本剤は元より多大なる藥効に依頼して一般の信用を博するに至れるは弊店の誇とする所なり
抑も淋病の如き疾患は其藥效の見易きと恰も外科手術の功拙と巧しく患者自身に於て直に經快を自覺すると否とに由り容易に判斷することを得るを以て何人と雖も之を欺くに由なし而して市上淋病の特效藥と稱するもの枚擧に遑あらず而して獨りサンタールが其名聲を擅にする所以は


其優越なる藥效が幾多淋病藥中一頭地を抜くものあるが爲めに外ならず
●本品獨特の長所
本品は内服して一種の化學的變化を起し強度の防腐殺菌液となり尿と共に排泄せらるゝ自然の洗滌法なるを以て淋病菌を其根底より驅逐するにはサンタールの外又良藥なし
藥價 急性病疾用特製分三圓五十錢、輕症用二週分一圓八十錢、一週分 六十五錢、小包送料十五錢
京都市二條通木屋町振替大阪三三四番 本家藥學得業士 濱田北辰堂藥局
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九〇四、一〇六八 振替口座京城 十六番

瓦斯コークス販賣 京城黄金町高等演藝館隣 酒井組 電話一二四九番

質 京城太平町二丁目三番元黒澤邸跡確實の擔保低利貸金融通す並古着賣買 宮永金藏 京城支店

腦病全治新藥


神經をおちつめ腦病を全治す
島村醫學博士の有効證明を得たる健腦丸は、腦病神經病に奇効を奏し、逆上を引下げ、便通を心能し、中風卒中を未發に防ぎ恐るべき腦充血を全治す
記憶力悪き人頭痛する人神經衰弱にて氣分鬱ぐ人常に腦神經を勞する人の必用藥は獨り本劑のみ也
定價 一日分十錢、三日分廿五錢、七日分四十五錢、二週分八十五錢、五週分金三圓
本舗大阪心齋橋北二丁目丹平商會藥房 分店東京本町丹平商會支店 大阪平野町 名古屋 各地有名藥店に取次す 賣捌は全國有名藥店に取次す

弊館には夜警の設備有り
陸軍指定旅館 鐵道院指定旅館 仁川水産組合指定旅館 第一生命保險會社指定旅館
仁川海岸 旭屋旅館 電話二五一
御客樣の安全此の上なし



エールリヒ、秦氏 新梅毒注射藥
右新劑サルバルサン到着本日より隨時注射治療致候(入院隨意)
一月十一日
京城南山町二丁目 松岡醫院 電話六七五番

廣告
一佛國レロイ社製壁紙各種
一英國ランカスター無地リノリユーム
一ボンメル蝶番各種
右多數貯藏致居候間御注文願上候
明治四十四年一月
京城エルロンドン商會 吉岡信太郎 電話九九五番

統監府及諸官衙御用
荷物運搬 引越荷物受負
伊藤組
電話四二〇番 本町三 電話七三八番 南大門驛 電話九四八番 大和町 電話一六〇八番 同第二

世帯道具は何でも有り升
外に宅ノ酪酒手ヨリ白米和洋ローソク上白シメ油高醬油ハ特約品
右品質上等直段下等大勉強販賣仕候間續々御用命奉願上候
日用雜貨卸問屋 京城本町六丁目 西崎嘉七本店 電話二百十番 電略(ニカ)又ニ 振替貯金口座韓國七番

石炭
唐津石炭各種 平壤無煙炭 三池粉炭 筑後炭 各種 鍛冶屋用 石炭粉
並に
煉瓦製造廉價販賣
石灰 生石灰 フカシ灰 製造販賣
仁川支那町一丁目(運輸部横) 八田利三郎本店 電話六十二番
龍山元町一丁目 八田石炭部
八田利三郎支店 電話五五三番

入院隨意
院長醫學士 由利弘
副院長醫學得業士 長尾乙二
慈惠會醫學士 尾上早見
東京醫科大學選科專攻 菊池徹
藥劑士 常盤光雄
仁川病院
電話十六番

梅毒新藥(六〇六號)
エールリッヒ、秦兩氏發見
●原品到着に付注射開始
本劑注射に就て特に府立大阪高等醫學校病院皮膚科部長恩師醫學博士櫻根孝之進氏より詳細なる指導を受く
◎貧者無資力者にも普及救濟の主旨に由り注射料金低減を實行す
◎嘗て當院治療を受けたる人々には特に便宜を與ふべし
花柳病痔疾專門
診療 自午前八時至午後八時
院長 醫學得業士 蘆田耕平
相生町南門湯横(電話一二九四) 京城梅毒病院

來れり
寫眞撮影の時季
幻燈器械
寫眞器械
藥品材料一切
旅行用娛樂用營業用
直輸入
京城本町四丁目 織居寫眞機部
電話二六二 振替貯金二三一

齒科治療
本町六丁目(飯そば横町)
ドクトル 中村安子
女子見習募集委細面談
(電話一五八三)

和洋金物商
英米煙草會社京城代理店
千代田相互保險會社京城代理店
京城本町貳丁目
佐野彦藏商店
電話一六三 振替口座韓國一二〇番
洋釘、亜鉛板、鋼線、銅線、中板、各種、土工用具、農具一式、仙徳火鉢、鑄物火鉢各種、生花用具、建築金物一切其他鍋釜鑄物類一切

京城米倉町
龍山精米所
電話一二四番
各位御多祥奉賀候平素は一方ならぬ御引立を蒙り奉謝候今般京城米倉町(南大門内朝鮮人朝市場側)に新工場建築移轉致候原動機は最新式吸入瓦斯發動機を据付候のみならず精米設備に於ても萬般良改を加へ候間製品は從來より一段の精選を期し候何卒倍舊の御高庇を以て多少に拘らず御用命の程希上候

酒精アルコール
直輸入元
仁川花町一丁目(電話六五〇番)(電略サ)
坂倉支店


京城光化門通
淺田洋服店
店主 大島專藏
(電話四百十二番)

印章彫刻 ゴム印彫刻
京城本町四丁目 赤帽子號印舖
諸官衙御用達 奥野岩太郎 電話九三番

朝鮮名産
鶴乃箸
○鶴の骨細工種々
○鶴の羽細工種々
○朝鮮土産品種々
京城本町三丁目(電話二五〇 振替韓國四八) 製造發賣元 海市商會
京城本町四丁目(電話九五六) 特約發賣元 日之出商行
京城本町六丁目(電話二一〇) 特約發賣元 西崎本店


神戸海上運送火災保險株式會社
資本金五百萬圓
出張所 京城明治町一丁目(電話一五四九)

移轉廣告
一弊店等日鮮合邦と京城府發展に伴ひ從來の場所にては不便利に付左記へ假新築移轉仕候間舊倍の御引立の程奉願上候且弊店等の店前には日本人朝鮮人支那人等共に多數開店卸小賣に係らず勉強營業致させ居候に付食料品は全部立所に取揃候間至極便利に有之候共に御引立願上候
京城南大門内南米倉町
辻本嘉三郎商店 電話六四一番 本宅旭町二丁目 振替口座京城三八番
池尻林太郎商店 電話一四七八番
仲買人 一同 電話三五一番 振替口座八六番

開店廣告
今般水道用具一式販賣致候に付ては各位の御便利を計り取附工事並修繕等精々勉強致し御用命の節は遠近を不問直に參上可仕候間多少に不拘御注文の程奉願上候
水道用具 ゴム並布ホース 附屬金物一式
京城明治町一丁目五十七番戸 旭商會 豊田由松

恩給年金 諸債券 利子 御便利 立替 賣買
確實取引月一歩五厘
京城中部寛道坊相思洞廿九統七戸下宿業博多屋方
上州屋支店 電話九百五番

質 京城旭町一丁目度支部官舍向側横路實會 旭町二丁目自府廳裏路曲實會
鹽見質店

◎貸金 旭町二ノ一五別府 高橋
有給者にて確實なる方には秘密に低利融通可申候

入院隨意
京城壽町二丁目(電話三七〇番)
中島醫院
院主醫學得業士 中島貞信



出帆廣告 一月中
海州行 安來丸 十九日、廿三日、廿七日、卅一日
天草丸 廿一日、廿五日、廿九日
屯串行 三省丸 十八日、廿二日、卅日
成歡丸 廿日、廿四日、廿八日
千葉丸 廿六日
當島行 千葉丸 廿一日、二月一日
成歡丸
三省丸 廿六日
九味浦行 海利丸 廿一日、廿九日
仁川本町四丁目 秋田商會船舶部